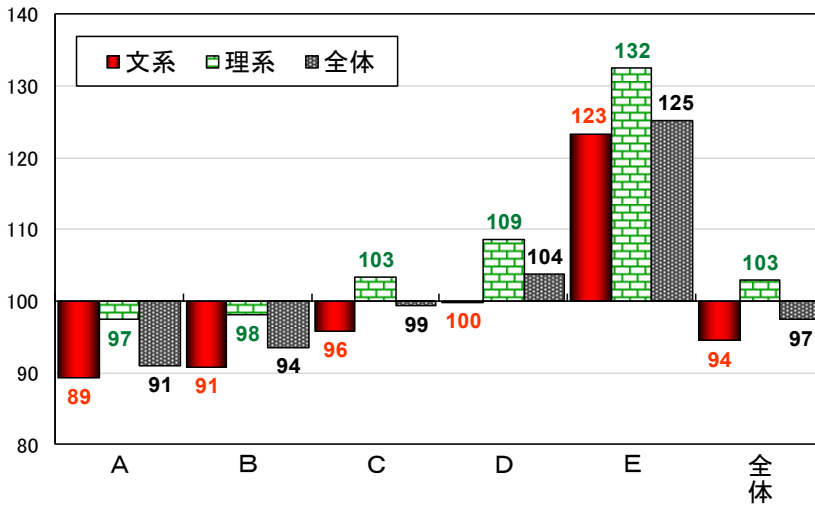


2020 年度入試状況分析【私立大】

◎模試合格判定ライングループ別志願状況

□文系の志願者数は難関のA・Bグループが10%前後の減少、
増加は合格目標ラインの低いEグループのみ



※前年度を100とする指数

＜集計について＞

※一般方式とセンター利用方式に分けて、
各大学の学部単位で最もB判定ラインの
高い募集単位を代表値として集計。

※医学科は分けて集計。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞

Aグループ=65以上

Bグループ=60~64

Cグループ=55~59

Dグループ=50~54

Eグループ=49以下

上のグラフは、私立大512大学の一般選抜入試の志願者数集計において、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、理系(103)はやや増加しましたが、文系(94)はやや減少と対照的でした。文系では、合格目標ラインの低いEグループ(123)は大幅増加しましたが、その他の4グループは減少しました。減少率は上位グループほど大きくなり、特にAグループ(89)、Bグループ(91)といった難関のグループは10%前後の減少で、文系の弱気な出願動向が強まったことがわかります。

一方で、理系も難関のグループは減少しましたが、Aグループ(97)がやや減少、Bグループ(98)は微減に留まりました。理・工系の人気上昇によって、理系の難関グループは文系のようなはっきりとした弱気な出願動向にならなかったといえます。理系のその他の3グループは増加しました。増加率は下位グループほど大きくなり、特にEグループ(132)は大幅増加しました。これは合格確保のための慎重な出願が要因といえます。